

令和8年度事業計画

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業計画

令和8年度法人目標

・職員のエンゲージメント向上を図り、時代に即したスマート経営
を実践する。

（重点目標）

- ・既存 3 部会に加えて 4 つの部会（SNS・人材確保・安全衛生・研修）を加えて、正職員全員が部会活動に参加し、部署横断型の組織づくりを行う。
- ・全職員にデジタル端末を配布し、LINEWORKS と Googleworkspace のアカウントを付与。ICT 推進を加速させる。
- ・令和 9 年 4 月に共同生活援助（GH）の住居追加を目指し、準備を行う。

○法人事務局

実施事業

- ・理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進行管理を行う。
- ・収支状況等の法人の運営上の課題について情報を内外から収集し分析する。
- ・その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告。
- ・全施設・事業の経理・総務・人事の集約
- ・働き方改革、健康増進法などの法令厳守。

取り巻く環境

マネジメント

- ・法人内外にかかわるキャッシュレス化の達成を踏まえた財務・キャッシュマネジメントシステムの構築。
- ・業務の効率化・省略化・DX（省人化）・ペーパーレス化・データのクラウド化の推進。
- ・グーグルワークスペースのさらなる活用。
人材確保・育成
- ・ワークライフバランスに基づいた職場環境の提供。
- ・広報 PR 活動のさらなる強化（HP と Instagram）。
- ・人事労務法の改正に基づいた働き方改革と法令厳守。

事業の重点項目

マネジメント

- ・業務効率化の一環として「AI シフト作成ツール」の導入をめざす。
- ・労災事案の起こらない職場環境の構築。
- ・物価上昇を見据えたコスト削減。
- ・スポットワーク活用のため、業務の整理・「見える化」推進。
- ・SmarthHR 活用。

人材確保・育成

- ・(新) 人事評価制度の運用開始。
- ・上長による定期的な面談(1on1)の継続実施。
- ・実習生の受け入れと支援体制の確立。
- ・人事異動を通じた「事業所(部署)連携と人材活性化」。
- ・子ども食堂の継続実施。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護(定員40名)
- ・施設入所支援(定員40名)
- ・短期入所(定員8名)

取り巻く環境

- ・山武圏域において、近隣のグループホームの増加により利用者様の選択肢が広がる中で、重度の知的障がいをお持ちの方々の利用希望のニーズは非常に高いが、受け入れ可能な入所施設は不足している。
- ・設立25年を迎え、老朽化した設備の修繕、改修を実施していく必要がある。
- ・DX化およびICT技術を積極的に導入することで業務負担を軽減し、人材確保に力を注ぐ必要がある。
- ・職員のキャリアステージに応じた段階的な育成プログラムを実施し、専門性の向上と組織の活性化を継続して行って行く必要がある。

事業の重点項目

- ・重度の障がいをお持ちの方が、安心、安全に利用できる施設運営を行うと共に「専門知識を持つ職員による質の高いサービス」を提供します。
- ・老朽化した設備の計画的な修繕を推進すると共に、職員の身体的・心理的負担を軽減し、質の高いサービス提供につなげるため、新たに職員用「ラウンジ棟」を新設し、職場環境の改善を図る。
- ・DX化およびICT技術を積極的に導入することで業務負担を軽減し、生み出された時間を、利用者様と向き合う時間や人材育成に充てることで、業務の質を向上させる。
- ・職員のキャリアステージに応じた段階的な育成プログラムを実施し、専門性の向上と組織の活性化を同時に実現する。

【新人職員】

メンター制度によるサポートや各種研修により、早期に職場に馴染みつつ、専門性が高まるよう支援する。また成功体験を通じてやりがいを感じる事が出来るよう、支援課全体でサポートする。

【中堅職員】

次世代のリーダー候補として、技術向上と後進育成の両面からアプローチし、専門性を高めると共にモチベーションの管理を実施する。

【パート・アルバイト職員】

多様な働き方を尊重しながら、動画等の研修を行い、短時間でも質の高いサービスを提供できる体制を構築する。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（6名）

取り巻く環境

・前回の事業計画の目標稼働率80%以上は達成できておらず。年間では70.1%に留まったが、従来の利用者様の利用拡大や新規の方の受け入れにて時により満室になる日も出てきている。

・一方で、身体機能の低下がある利用者様も見られ、みどり学園や他事業所と連携し利用者様の变化にも合わせた支援が求められる。

・県内のグループホームの増加と共に入所待機者の減少が危惧される。グループホームの新設の制限なども今後はあるが、新規の利用者獲得が難しくなる状況は続くと予想される。

事業の重点項目

・引き続き稼働率80%以上を目標に定期利用の方の受け入れを継続し、新規利用者を検討していく。

・身体機能の低下や突発的な体調不良者の対応で混乱の無いよう、個々の利用者様の対応についての共有化や、体調不良者の対応の手順などを整備する。

・緊急受け入れについて、みどり学園と連携し、柔軟に対応する。

・一休独自のイベントを企画し、利用者様のストレス解消や楽しみにつながるよう開催していく。

・情報共有の困難さについて、従前の対応のままとなっている。法人で情報デバイスの貸与等、パート職員へも拡大しているので、LINEWORKS や GoogleWorkSpace を活用し、情報共有と記録、報告の省力化を図っていく。

・夜勤専従のパート職員が主な為、個別面談を定期的に行い利用者様への対応方針や理念の浸透を図る。

○山武青い鳥工房・山武青い鳥の家

実施事業

- ・生活介護

- ・放課後等デイサービス（共生型） （定員合算40名）

取り巻く環境

- ・「生活介護」「放課後等デイサービス」ともに、圏域内に多くの事業所があるため、利用者様にとっては選択できるというメリットがある。そのため、事業所としては「選ばれる施設」を目指さないといけない。
- ・共生型放課後等デイサービス、2台目の特殊浴槽の導入、補助金による送迎車の購入など、態勢は整ってきているため、ご利用ニーズに合わせた柔軟な受け入れが必要になってきている。
- ・昨年度も特別支援学校からの実習生が複数名いらっしやり、卒業後の相談も来ているため、放課後等デイサービスの利用なども含め、学校や相談支援事業所と連携していく必要がある。

事業の重点項目

- ・共生型放課後等デイサービスの強みを活かし、「放課後等デイサービス」と「生活介護」のつながりを感じてもらい、卒業後も安心して通っていただけるような環境を整える。
- ・ご自宅での入浴が難しくなっている利用者様の対応も増えてきているため、特浴の造設によるメリットを活かせるようにしていきたい。
- ・祝日利用を希望される方が一定数いらっしやるため、ご家族のサポートという役割も果たしていきたい。
- ・大学や専門学校などからの実習生やボランティアの受け入れ、子ども食堂などで法人の活動をPRできるよう努める。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員12名）
- ・短期入所（空床型）

取り巻く環境

- ・圏域内だけでなく、地域にグループホームが数多く存在している状況がある。
- ・グループホームでも、入所施設同様に入居者の高齢化の問題が発生している。

事業の重点項目

- ・空床型短期利用の受け入れを積極的に行うことで将来的な入居につなげたり、緊急利用のご希望に応えることで、地域の中で頼られる存在を目指す。
- ・入居者様の高齢化が進んでいて、急に体調を崩される方も出てきているため、緊急時の対応をスムーズに行えるよう、日頃から連携を取って備えておく。
- ・令和9年4月の住居追加を目指し、入居希望者のニーズ調査や関係機関との意見交換を行い、スムーズな開設に注力する。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

取り巻く環境

山武市および近隣地域には生活介護事業所・就労B・グループホームが複数存在し、新規利用者の確保は厳しさを増している。加えて利用者様の高齢化や障がいの重度化、行動障がいや医療的配慮を要するケースの増加など、支援ニーズは多様化・高度化している。

生活介護事業者には日中活動の提供にとどまらず、緊急時対応や関連機関との連携を含めた包括的な支援体制が求められている。また、職員の定着や専門性の向上、働きやすい職場環境の整備は、事業の安定的・継続的な運営を行う上で不可欠な要素となっている。このような状況を踏まえ、既存利用者様の利用満足度向上を重視し、個々のニーズに基づいた支援の質を高めるとともに、地域において選ばれ、信頼される事業所運営を行っていく必要がある。

事業の重点項目

利用者一人ひとりの障がい特性、生活歴、家族状況等を踏まえたアセスメントを丁寧に行い、個別支援計画に基づく支援を徹底していく。

利用者様の状態変化や加齢に伴う課題を見据え、安全面・衛生面に配慮した環境整備及び支援体制の見直しを行う。

作業活動、創作活動、運動、余暇活動などを通じて利用者様が「楽しさ」や「達成感」を感じられるよう活動内容の充実を図る。

緊急時や突発的な支援ニーズにも柔軟に対応できる体制を整え、地域生活支援拠点であることぶき庵一休の日中活動先としての役割を意識した運営を行う。支援の質の向上を目的に職員研修や情報共有の機会を計画的に設け、支援力の底上げを図る。

○ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所（5名）

取り巻く環境

近隣に短期入所事業所は少なく、重要な役割を背負っているといえる。地域生活支援拠点として、緊急時利用等地域における多様かつ突発的なニーズに迅速に対応することが求められている。徐々に稼働率は上昇してきており、重度障がいの方や8050問題に代表されるようなご家庭の問題への取り組みが今後も重要と考えられる。

事業の重点項目

■施設・設備

- ・利用者様・職員からの要望あり、自動販売機を設置する。

■稼働率・開拓方法

- ・稼働率は R6 年度 92%、R7 年度 90%と低下しており、R7 年度は利用者のご逝去が重なり、新規契約が追いつかなかったことが要因となっている。
- ・管理者・ケアマネが居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、総合病院に対し、以下の方針で戦略的な開拓を行う。
 - 断らない姿勢と迅速な対応を徹底し、受け入れの柔軟性を強調する。
 - 「今日から泊まれる」「明日から通える」といった小多機の即応性を前面に出す。
 - 急な退院や家族の急病など、緊急時にも「まず受け入れる」体制があることを明確に伝える。
- ・サービス品質の向上により、安全性の確保、リスク低減、顧客満足度向上を図り、地域での信頼獲得につなげる。

■人材育成

- ・自ら考えて行動できる主体性のある職員を育成する。
- ・生活支援の視点、柔軟な判断力、複数業務を担えるマルチスキル、地域と繋がる力を備えた人材を育成する。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

- ・認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護
- ・短期利用認知症対応型共同生活介護
(定員 18 名)

取り巻く環境

平均年齢 84.5 歳 最高齢 104 歳 最低 70 歳 平均介護度 2.9

- ・これまで入居者 19 名満床状態続いていたが、先月入居者 1 名が老衰の為逝去。現在は入居に関する問い合わせ数件あり、随時見学希望者の対応を行っている。
- ・入居者 17 名中、7 名が小多機かきつばたご利用からの移行であり、ご家族の居住地も市内となっている。勤務する職員の内、14 名程が市内居住であり、ほほえみの里かきつばたは最も地域密着型の GH として第一線を走っている。市内の認知症高齢者 GH は 5 件あるが、地域の実情に応じた柔軟な対応が出来る施設としての需要は高い。

- ・介護人材不足の深刻化と2025年問題が本格化するとされる2026年ピーク説に伴い、職員のマルチタスク化が必須となっている。また、人材不足を補い、ケアの質と効率の両立を図る為、ICT や介護ロボットの活用が事業継続の鍵となることが予想されている。

事業の重点項目

- ・外部評価では、健康、医療、安全面、職員の接遇マナー、ICT 活用の充実、食事の栄養バランス、面会のしやすさなどで高評価を獲得。懸念面としては、外出機会の不足が挙げられた。今後は法人の理念に基づき、入居者と職員の地域活動への積極的参加を推進し、地域に根差した風通しの良い施設の運営とともに、入居者の日常にハリを与え、QOL の向上にも繋げていく。
- ・火災時の避難、消火訓練や、水害時の垂直避難など、あらゆる場面を想定したBCP 訓練を定期的実施し、入居者の特性に応じた避難支援体制を構築し、機動力のある施設作りに取り組む。
- ・小多機かきつばた、居宅かきつばたと連携を密にしたシームレスな移行ができるメリットを最大限に生かし、入居者やご家族の不安、負担を軽減するとともに、強力なスタッフ間の応援体制を維持、継続していく。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援
- ・特定相談支援事業
- ・特定障害児相談支援事業

取り巻く環境

大網白里市・周辺地域共に高齢化率の上昇
 独居高齢者・高齢者夫婦世帯の増加
 多問題家族・8050 等、複数の課題を抱えた世帯の増加
 交通手段の減少
 サービス事業所の減少
 相談支援員・介護支援専門員の減少（介護難民の増加）

事業の重点項目

居宅介護支援・相談支援事業を行っている特性を活かし、様々な機関と連携し、チームで利用者様・ご家族様を支えていく。
 要支援認定・要介護認定問わず積極的に受け入れていく。
 相談員がスキルアップし、利用者様に選択肢を広げられるよう支援していく。

○感染症・災害対策部会

事業の重点項目（感染症）

- ・コロナ、インフルエンザ、各感染症に関する知識の習得。
- ・ラインワークスでの各感染症への注意喚起。
- ・ガウンやマスク、検査キットや消毒液等の在庫管理（ローリングストック）。
- ・手指衛生の徹底。

事業の重点項目（災害）

- ・地震、津波、台風等への災害に関する知識の習得。研修への参加を周知する。
- ・ラインワークスでの災害への注意喚起。
- ・引き続き連絡訓練を継続し、質の向上を図る。
- ・各事業所における定期的な避難訓練の実施。
- ・翡翠会、各事業所の備蓄の定期的なチェックを行う。
- ・事業所間の大規模災害における避難訓練の実施。

○虐待防止部会/身体拘束的適正化部会

事業の重点項目

- ・虐待防止、身体拘束適正化に関わる指針の整備を行なうと共に、各職員に内容の周知を図る。
- ・虐待防止、身体拘束適正化に関する外部研修に参加し、各事業所に伝達研修を行なうことで、知識、支援の向上を図る。
- ・翡翠会独自の職員セルフチェック表を作成・実施し、支援の振り返りを行なうと共に、各事業所の結果に合わせた内部研修を行なう。
- ・巡回訪問を各事業所に年2回行ない、不適切な支援が行われていないか、不適切な支援に繋がる運営環境にないか等を確認し、風通しの良い職場づくりに努める。
- ・2ヵ月毎に、各事業所の身体拘束事案を確認・検証し、不適正な身体拘束が行なわれていないか確認する。
- ・通報事案が発生した際に、当該事業所と連携をとり、検証・再発防止策を確認する。検証結果については、法人内で共有する。

○生産性向上部会

事業の重点項目

- ・人口減少を見据えた業務運営のために必要なシステム等の検討と導入
- ・兼務しやすい職場環境づくり（GWS、LW、ケア記録アプリでの情報共有）
- ・IT人材の育成と新システムや新機材導入時の支援体制強化
- ・onedrive 廃止と Googleworkspace への一本化
- ・人材確保と定着のため職員エンゲージメント確認、Well Being の視点を取り

入れた施策提案

- マルチチャネルでの広報情報発信
- 他法人、他事業所見学の実施と報告

○地域における公益的な取り組み

事業の重点項目

- 本会が開催する「ひすいかい子ども食堂」も、大網ロータリークラブや大網白里市に加え、パルシステム等協力団体が増加してきた。今後も関係機関と連携し、地域のニーズに合わせた運営を行う。

年4回 開催 山武青い鳥工房でお弁当配布と作業品販売形式で開催予定。

(5月・11月・1月・3月に開催予定)